

取材ご案内

APUの学生が大分県の持続可能な地域の形を研究！ 「おおいた遺産と地域づくり」授業開講

この授業は、2017年1月に包括的連携協定を締結した大分合同新聞社との連携により、アジア太平洋学部の正課の授業として実施しています(科目名称「特殊講義(観光学)」)。APUの学生が、10月9日から11月末までの2ヶ月間、大分の歴史、自然、文化などを学びます。受講生は、3年生以上の同学部生で、国際学生7名を含めた40名。講義は日本語で行います。

今回の授業テーマを「おおいた遺産と地域づくり」とし、大分合同新聞社が選定した120の「自然」、「文化」、「食」の「おおいた遺産」の中のいくつかを題材に、大分県の地域ツーリズムの未来を考え、持続可能な地域の形を探っていきます。授業は、各分野の専門家による講義とフィールドワークで構成され、最終回では学生が講義の成果を発表します。

轟博志(とどろきひろし)アジア太平洋学部長は、「大分県や別府市の協力で開学した本学は、あらゆる研究教育成果を地域に還元・共有し、育むことをミッションとしてきました。今回、大分合同新聞社の協力を得て、観光地域づくりをテーマに、地元大分県内で行う現地実習を組み合わせた授業ができることは、非常に喜ばしいことです」と述べています。

<概要>

①「神仏習合の里とヘリテージ」(宇佐神宮と六郷満山)	
10月9日(月)【講義】 1限(8:45 - 10:20)	講師: 大分合同新聞社特別顧問 神足博美氏 ・オリエンテーション「おおいた遺産とは何かーおおいた遺産の選定、位置づけ」
2限(10:35 - 12:10)	講師: 国東半島宇佐地域農業遺産推進協議会長 林浩昭氏 ・「六郷満山と世界農業遺産」をテーマに「神仏習合の里」の“現代”を考える。
10月15日(日) 【フィールドワーク】	ガイド: 六郷満山・文殊仙寺副住職 秋吉文暢氏 ・「六郷満山の“現在”」をテーマに宇佐神宮、国東を巡り、護摩焚きを体験し、神仏習合の里のいまを考える。
②「大野川流域と石仏文化」	
10月23日(月)【講義】 1限(8:45 - 10:20)	講師: 大分県教育庁文化課指導主事(文学博士) 山路康弘氏 ・「石仏文化ー奥豊後磨崖仏ー臼杵磨崖仏ー石仏文化圏・歴史を考える」
2限(10:35 - 12:10)	講師: 日本文理大教授 杉浦嘉雄氏 ・「大野流域の自然と石仏文化を考察する」
10月29日(日) 【フィールドワーク】	ガイド: 山路康弘氏(同上) ・磨崖仏・石仏文化を学ぶ
③「大友宗麟とキリシタン文化」	
11月6日(月)【講義】 1限(8:45 - 10:20)	講師: 大分市教育委員会文化財課参事 坪根伸也氏 ・「大友宗麟とキリシタン文化ー大友遺跡からの考察」
2限(10:35 - 12:10)	講師: 大分学研究会代表理事 楢本讓司氏 ・「大友宗麟ー大友文化の今」
11月12日(日) 【フィールドワーク】	ガイド: 調整中
④「学生によるプレゼンテーション」	
11月20日(月)	成果発表

*フィールドワーク、学生によるプレゼンテーションの詳細につきましては、学長室(広報)までお問い合わせください。